

情報過疎地の解消図る 観光誘客へ無線LAN開設

となみ衛星通信テレビ株式会社
代表取締役社長

岡部 一輝氏



過疎地とも言えるこの地域に情報が行き渡るようにしたいとの思いがありました。当時県議会議員だった河合常則さん（元参議院議員）が社長に就いて、関係機関などとの調整に当たってもらったおかげで、私は専務として実務に集中することができました。

—テレビ接続は加入率68%—

ちょうどこの頃、放送衛星の打ち上げ成功がありました。CATVへの番組配信がテープから衛星通信に切り替わった時期で、社名はここに由来しています。1991年に砺波市、福野町、福光町の市街地エリアで開局し、翌年は城端町、井波町、庄川町の市街地エリアでもサービスを開始しました。現在は行政からの委託業務も含めて、砺波市、南砺市、小矢部市の一部を除く全域でサービスを提供しています。エリア内の約42,000世帯中、テレビの接続は約28,500世帯（約68%）、インターネットの接続は約11,000世帯（26%）と住民の皆さんの支持のお陰で、高い加入率となっています。

—放送から通信事業に参入—

メディアが多様化し、多チャンネル化していますが、どのように対応されてきましたか。

開局当時、CATVは新聞やラジオなど既存のメディアと分けて「ニューメディア」と呼ばれました。その後、行政の規制緩和により、ケーブルを利用した電話や、さらにはインターネットが可能になり、「マルチメディア」と呼ばれるようになります。放送一辺倒から通信事業への参入です。その途端にN T Tとの競争が始まりました。インターネットがブロードバンド化して、ケーブルが光ファイバーに

で（市町村合併前の）砺波市、福野町、福光町、城端町、井波町、庄川町をエリアとするCATV事業を目指して1989年、準備会社を設立しました。

県内のCATVの中で開局が早かったようですね。

開局は高岡が先でしたが、準備会社は富山県第1号です。振り返ると、若さゆえの無謀な挑戦だったとも思いますが、県内でも情報

ケーブルテレビ事業を始めた経緯を聞かせてください。

青年会議所（となみJC）のOB仲間に、伊藤忠商事から提案があったのがきっかけです。仲間3人で「面白そうだ」と話をしてスタートしました。当時、ケーブルテレビ（CATV）は行政体ごとに認可を受けて行うことが一般的でしたが、世帯数の少ない田舎では事業として成り立たない。そこ

なった。さらにスマートフォンやタブレット端末が普及し、Wi-Fi（ワイファイ、無線LANの一種）が日常生活の中に入ってきている。投資の切れ目がありません。それでも増収増益に持ってこられた手腕はすごいですね。

コマーシャルという地域情報を集める目的で専門の営業課を持っているのは当社だけです。収入を増やすためというよりも、地域の商売の活性化につながるようケーブルを使ったらいかがですかと提案しています。若い社員が色々アイデアを出しています。観光案内などで無線LANを活用する自治体が出てきました。

当局も今年4月から公共施設15カ所にWi-Fiの無料アクセスポイントを開設しました。ただのアクセスポイントとしてだけでなく、地域の情報を提供できるようになっています。観光客などはお薦めの観光コースやイベント情報などに簡単に接続することができます。また、南砺市ではお年寄り向けの「そくさいネット」というサービスを行っています。ボタンの少ない端末を使って、地域の情報を知ったり、近所の人とテレビ電話ができたりするものですが、この事業にも参画しています。

CATVは地域密着が売りと思えますし、防災面では住民の期待も

あると思いますが、取り組みは。

自社のチャンネルでは議会の様子を放送したり、消防署と連携して火事の情報を流したり、地域の人に必要な情報を流しています。こうしたことは地元ならこそできる。選挙速報などは視聴率がドンと上がります。

「情報化の遅れを何とかしたい」というのがスタートだったので、集まった情報を色々な方法で地域に伝える努力が必要だと思っています。2001年には北日本新聞社と一緒にラジオ局の「エフエムとなみ」を立ち上げました。また加入者に配布するチャンネルガイド誌には番組表だけでなく、地域のお店の情報やグループの活動、地域の昔話などを掲載しています。情報収集、編集ともに自社の社員に任せており、この情報を番組作りにも生かしています。コマーシャルについても地域の商売の活性化に繋がるように提案しています。

—相談窓口のサポート課新設—

スタッフの教育・研修はどのようになさっていますか。

あえて経験者は採用していません。番組、映像作りなどの技術的なノウハウは、東京へ研修に行くなどして習得しています。番組作りは、地域のお客さんの目線に立つのが一番大切だと考えています。

— 略 歴 —

1942(昭和17)年9月生まれ。南砺市(福光)出身。福光中学卒業、太平木工、トヤマキカイ勤務を経て、1974年オカベ美装を創業し、1976年(株)オカベ設立、2004年から会長。1989年のとなみ衛星通信テレビ設立に伴い専務就任、2006年から現職。1997年(株)T S Tテクノ設立に伴い社長就任、2006年副社長、2012年6月から会長。



一方でサービスが増え、機械が新しくなると、例えばリモコンの使い方が分からないとか、コンピューターが立ち上がらないといった相談が増えてきます。これまではどうやって加入率を上げるかと取り組んできましたが、加入者の皆さんに喜んでいただけるよう心がけようと、今年4月に「サポート課」を設けました。専従4人体制で、困っているお客さんの所へ飛んでいっています。

社員に求めていることは。

第一にやる気と日々の変化への対応、そして地域の皆さんのニーズを捕まえること。地元密着で、地域の皆さんにケーブルテレビは地元のメディアだよ、ということをどうやって広めていくか、日頃から取り組んでいます。

最後に座右の銘をお尋ねします。

昔から日々、新しい仕事に取り組む場合、「日々新た」ということが大事だということを考えています。感謝や勤勉なども色々ありますが、我々の仕事はいつもそういう考えがないと、時代についていけないというのが率直なところです。

会社概要

となみ衛星通信テレビ株式会社

設立：1989年1月
開局：1991年6月
所在地：南砺市八塚568-2
資本金：4億9,860万円
事業内容：有線テレビジョン放送事業、有線放送を利用した電気通信事業(対象エリア:砺波市、南砺市、小矢部市)
従業員数：40人(2012年11月現在)
売上高：15億5,400万円(2011年度)
関連会社：(株)ティエスティテクノ、(株)エフエムとなみ